



令和6年度 興味をもって探究する姿  
「植物を使って色づくり」



# 興味をもって探究する姿 「植物を使って色水遊び」

子どもの姿を踏まえ、どうしてこのテーマになったのか

6月、グラウンドで葉をすりつぶしジュース作り（色水遊び）を楽しむ姿があった。室内では野菜をすりつぶし色水を作ってみたところ、色水ジュースを並べ色の違いに気づき、同じ素材でも違うことに不思議を感じていた。

育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）

- ・子どもの自由な発想や行動を大切にしておのびのびと遊ぶ。
- ・身近な植物に興味を持ち、見たり触ったり親しみを持つ。
- ・互いに共感したり、驚きや発見を共有する楽しさを味わう。

保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）

- ・期待する色を出すためには、どんなものがあたらいいのか子どもと話し合いながら準備する。
- ・色の出し方は自分たちで考えて取り組めるよう過剰に言葉をかけず、「次はどうする？」と問いかけ相談しながら進める。



## 活動①「植物を使って色水あそび」

### ねらい

- ・植物に触れ親しみを持つ
- ・色水を出す過程の中で、どのようにすれば理想の色になるか考え 他児とも共有する。
- ・色が変化していく様子を見て、驚いたり不思議を体験する。

### 振り返り

- ・夏に揃える植物が少なく職員や保護者にも協力依頼をした。
- ・色が出ない植物はハーバリウムのように瓶に詰める姿があり、色が出る植物にこだわらなくても良かった。
- ・遊びが継続しなかった子も「次はどんなジュースにしようかな？」など繰り返し遊ぶ姿があるので素材は十分用意をしたい。



### 活動の様子・子どもの姿の考察

- ・紫蘇の葉を見るとまずは匂いに気付く。ちょっと臭い」など言っていたが食べられるものだわかると早速色出しを始めようとする。何を使うか聞くと「石」「お皿」「水」と考えを伝える。
- ・石で葉をすりつぶすのは力とコツが必要だと苦戦。1人の子が水を入れた皿の中で葉を揉むと色が出ることに気づき、他児に伝え広がっていた。
- ・紫蘇の葉が無くなった後、朝顔の花をご近所からもらう。紫蘇の葉同様に揉みだした。水の量で色の濃度が違うことに驚き、違いを比べて楽しんでた。視覚で感じた不思議さを子ども同士で共有し楽しむ。また、朝顔は色が出やすいことから興味が無かった子も参加しだした。
- ・サルスベリを提供してみたが色が出ないことを不思議がる。あきらめず「もっと強く揉んだら・」と頑張るが、結果「ピンクでも色が出ない花もあるんだね」とつぶやく。
- ・その後、ボトルに花を入れ眺め楽しむ姿もある。



次の活動へ

## 活動②テーマ「植物を使って色水遊び」

### ねらい

- ・植物と色のつながりを楽しむ。
- ・色が出る出ない、友達の色と違うなど発見を楽しむ。

### 振り返り

- ・絵の具の時は混ぜる楽しさ。植物では「出す」楽しさを味わっている。透明なものに色が付く。自分が作り出している感覚を喜ぶところが楽しい様子。
- ・同じ素材でも自分の色と友だちの色は違うところに疑問を持ち面白い。
- ・直接手に触れずビニール袋の中の様子を見ながら、手や指の強弱や使い方感覚により色を作り出すことに夢中になっている。



次の活動へ



### 活動の様子・こどもの姿の考察

- ・様々な色出しの姿を見て、ご近所から朝顔をいただき提供。それと共にジッパー付きのビニール袋も出したところ回数を重ねる毎に扱いが上手になっている。
- ・小さい袋に水を入れすぎあふれだすところから水の量を調整。手のひらでつぶすと色が出ず、すりつぶす子は色が濃いことに気付く。爪を使っている子もいた。
- ・色が出ない子は大人を頼ってくるが、〇〇ちゃんに聞いてみたらと促してみる。
- ・聞けなくとも真似をしている。「どうやるの」と聞いている子もいる。
- ・水を入れたビニールに金木犀を入れて「金魚が泳いでる」と表現する子もいる。
- ・冷蔵庫に入りたいという。冷凍庫のことかな？
- ・ビニール袋が大きい時は色出しの技法がわかりやすく見える。爪、揉みこむ、シェイクなどダイナミックになってきたように見える。

## 活動③「自分なりの色出し遊び」

### ねらい

- ・五感を介して色づくりを楽しむ。
- ・自分なりの色出しに喜び、友達と共有する。

### 振り返り

- ・色出しの過程で様々な五感を使っている。玉ねぎは匂いや涙の印象が強い。
- ・キャベツの色水の変化の理由はわからないが「どうして？」の気持ちから色が変わるタイミングが見たいと探究心に繋がった。
- ・自分で作った色は一般的な名前ではなく自分なりのイメージの色で表現する。友達との違いを明るい濃い薄いなどとも言う。
- ・活動2までは大人はあまり言葉を発さないようにしてきたが様々な発見や子どもたちの様子から子どもの思いを聞きたくて「なんでだろう」「どうしてだろう」と大人の疑問を言葉にすることを増やした。



### 活動の様子・子どもの姿の考察

- ・植物が見当たらず紫キャベツを用意してみる。大人は煮ださないと色は出ないと思っていたが、揉んでいくと水色が出てきたことに気付く。今までにない色合いだったため皆が興味を持ち一気に盛り上がる。
- ・袋の中ではキャベツが邪魔で色が見ずらいので、じょうで色水だけボトルに入れ替えてみる。
- ・「シンデレラの色」「きれいな色」と何度も作り出す。ボトルを部屋に飾り並べると違いを眺める。次の日にすべて紫色に変化。「なぜ？」をみんなで面白がる。
- ・「キャベツの色は魔法みたいに色が変わる」と認識し、次の日作る時は色が変わることを期待する。中には色が変わる瞬間を見たくて家に持ち帰る子もいた。
- ・その後紫玉ねぎを提供。皮をむいていると匂いが出て涙も出る。
- ・再びキャベツやおしろい花を使って色出し。ブレンドしたり、自分なりの色の表現をする。「明るい〇〇」「かわいい〇〇色」など。紫蘇があると匂いにひかれて参加する子もいる。
- ・冷蔵庫に入りたいという子がいなくなった。色水遊びから色出し遊びになってきたからか。



次の活動へ

## 活動④「たくさんの植物に触れ自分なりに色出しを楽しむ」

### ねらい

- ・ 様々な植物に親しみ出る色を期待する。
- ・ 植物の美しさを五感で感じる。
- ・ 道具の使い方を工夫する。

### 振り返り

- ・ 素材足りなく廃材となるお花を利用したワークショップを委託してみた。目新しい景色でもマイペースで色出しを進める子もいれば、興奮して色出しよりも花集めを喜ぶ子もいた。色出しはしなくとも花の感触や匂いは感じられているように思う。
- ・ 素材が豊富になり道具の扱いもいつも通りにはならなかったが、どうかしようとする姿が見られた「いつもだったらできるのに」とつぶやく姿もあった。



### 活動の様子・子どもの姿の考察

- ・ お花がいっぱいな非現実の世界を楽しみながら自由に植物に触れ色出しを始める。
- ・ 色が出ない花が多いが期待があり様々な方法、今まで体験してきたやり方で色を出そうとする。
- ・ 色が出ないことをあきらめると好きな花を選びボトルに刺していく。
- ・ 他クラスの子に色出しのやり方や工夫を伝えている。
- ・ 色が出ると周りの友達に伝えたり、「どうやったの?」と聞かれるとやり方を説明する。
- ・ 色が出やすいものがわかり選別する。何でもかんでもから必要なものを選ぶ。
- ・ 素材の多さからボトルに詰め込み飾った後は持ち帰りを希望する。



次の活動へ

## 活動⑤「保護者と色出しを楽しむ」

### ねらい

- ・色出しを親子で楽しむ。
- ・子どもたちの探究活動を保護者に知ってもらう。
- ・子どもたちの成長の姿を喜び合う。

### 振り返り

- ・素材集めに協力いただいた保護者も実践でき、イメージが体験となったことで子どもと共有感が持てていた。
- ・素材は限られどんなものが適しているか新なものは導入できなかった。



### 活動の様子・子どもの姿の考察

- ・一年の成長を振り返る保育展という保護者参加行事にて「植物を使って色づくりコーナー」を設置。
- ・「どうやってやるの？」と保護者に聞かれると、事細かく教えたり無言でやり続ける子がいる。それぞれの伝える表現の違いがある。
- ・保護者が素材や子どもの遊び方を知る。一緒に楽しむ。
- ・異年齢も興味を持ち保護者と一緒に楽しむ。目についたものを袋に入れ揉みだし色が出ると喜ぶ。
- ・保護者は子どもたちの遊び方に関心を示す。



次の活動へ

# 振り返り



## テーマへの振り返り

- ・ 戸外遊びの中で偶然始まった植物からの色出し。子どもたちの姿が活動のきっかけになった。活動の中では不思議に思うことで、次もやってみたい気持ちになり何ヶ月も繰り返す活動に繋がったように思う。また、友達との色の違いに気付いたりやうまくいけないことがお互いを意識するきっかけになり関係を深めていくこともできた。

## 育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）の振り返り

- ・ 自分で考えた方法で色を出した嬉しい感覚がその子なりの喜びや自信に繋がった。
- ・ これは色が出るかな？これはどうかな？と興味を持って植物に触れ関心が広がった。
- ・ 友だちと同じようにやってみたい。どうやったらできるんだろうの気持ちから日ごろかわりのない友だちともかわるきっかけになった。見せ合ったり比べ合いながら共有し合うことができた。

## 保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）の振り返り

- ・ 繰り返し同じ活動をしていると大人が新しい環境を求めてしまうが、ほぼいつもと同じ環境や道具だったからこそ安心のできる環境の中で充実して活動できたように思う。改めて子どもの姿からは繰り返す楽しさを認識することができた。
- ・ 活動中から繰り返す楽しさを認識し討議できていれば、もっと自然に生活の一部として活動が取り込めたかもしれない。担任間での意見交換もその部分の気づきが遅くなってしまった。
- ・ クラス内の活動が異年齢の目に触れ、1，2歳児にも興味が広がり色出し遊びが継続する良い影響が見られた。